

## 空間情報科学研究センター

I	研究の水準	.....	研究 29-2
II	質の向上度	.....	研究 29-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 研究活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 国際的ネットワークの構築において、学術国際交流協定提携数は、平成21年度の16件から平成27年度の20件となっている。また、国際ワークショップの開催数は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の平均2.3件から第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の平均13.3件となっている。
- 空間情報科学の普及と研究成果の社会実現のため、平成23年に寄付研究部門である次世代社会基盤情報研究部門を設置しており、空間情報流通・共有のための標準化について、携帯電話等の移動体データの国際標準案を民間企業と共同で作成し、平成26年度に成立させている。
- 科学研究費助成事業の採択状況は、第1期中期目標期間の平均9.8件（3,910万円）から第2期中期目標期間の平均16.8件（4,890万円）、採択率は平均55.4%から平均65.1%となっている。

観点1-2「共同利用・共同研究の実施状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成22年度から運用している空間データ基盤システム（JoRAS）におけるシステム機能強化のほか、復興支援調査アーカイブ、人の流れデータ等のデータ拡充を行っている。その結果、共同利用・共同研究の実施状況について第1期中期目標期間と第2期中期目標期間を比較すると、実施件数は平均49.7件から平均128.5件へ、研究用空間データ利用者数は平均186.2名から平均345.8名へ、出版論文総数は平均157.7件から平均251.8件へ増加している。また、平成18年度から実施している文書情報から空間情報への自動変換を行うアドレスマッチングサービスの利用件数は、平成18年度から平成21年度の平均1億3,000万件から第2期中期目標期間の平均3億9,000万件へ3倍に増加している。

以上の状況等及び空間情報科学研究センターの目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特にヒューマンインタフェース・インタラクション、社会システム工学・安全システムの細目において特徴的な研究成果がある。また、第2期中期目標期間における国内外の学会からの受賞数は平均9.0件となっている。
- 特徴的な研究業績として、社会システム工学・安全システムの「人の流れプロジェクト」があり、人々の動きを把握することを目的とした集計データや調査票データ等を用いて、データ処理技術等に関する研究を行っている。
- 社会、経済、文化面では、特にヒューマンインタフェース・インタラクションの細目において特徴的な研究成果がある。
- 特徴的な研究業績として、ヒューマンインタフェース・インタラクションの「計算機を介した人と生態系のインタラクション」があり、平成25年に地方自治体、企業と共同研究による開発・商品化を行い、継続的発展が可能な経済基盤の確保と魅力あるまちづくり推進に貢献している。

以上の状況等及び空間情報科学研究センターの目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、空間情報科学研究センターの専任教員数は13名、提出された研究業績数は4件となっている。

学術面では、提出された研究業績4件（延べ8件）について判定した結果、「S」は6割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績4件（延べ8件）について判定した結果、「S」は4割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 受託研究・共同研究の受入件数について第1期中期目標期間と第2期中期目標期間の平均を比較すると、受託研究は4.8件から9.8件、共同研究は8.0件から11.6件となっている。
- 平成22年度から運用している空間データ基盤システム（JoRAS）におけるシステム機能強化のほか、復興支援調査アーカイブ、人の流れデータ等のデータ拡充を行っている。その結果、共同利用・共同研究の実施状況について第1期中期目標期間と第2期中期目標期間の平均を比較すると、実施件数は49.7件から128.5件、研究用空間データ利用者数は186.2名から345.8名、出版論文総数は157.7件から251.8件となっている。また、文書情報から空間情報への自動変換を行うアドレスマッチングサービスの利用件数は、平成18年度から平成21年度の平均1億3,000万件から第2期中期目標期間の平均3億9,000万件となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 国内外の学会からの受賞数は、第1期中期目標期間の平均6.8件から第2期中期目標期間の平均9.0件となっている。このうち、助教以下の若手研究者の受賞件数は、3.7件から6.0件となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。